

連合宮城

第73回地方委員会を開催



大黒会長挨拶

連合宮城は2022年2月22日(火)、ハーネル仙台(仙台市)において、連合宮城『第73回地方委員会』を開催した。新型コロナウイルス感染拡大が収束しない中、前回同様の形態での開催となった。

議長団には、J P 労組 高橋幸哉地方委員・私鉄総連 山田俊徳地方委員の2名を選出し、スムーズな議事進行に努めていただいた。

冒頭、執行部を代表し大黒会長は、「2022春季生活闘争は大変厳しい環境ではあるが、コロナ禍だからこそ賃上げを行う必要がある。地方委員会終了後に予定をしている春闘勝利総決起集会において改めて取り組み強化の確認をお願いしたい。また、地域と政治の関わりは、連合運動において重要な政策である。第26回参議院選挙においては、しっかり連合の政策を理解していただき、働く者の目線での生活の維持、地域を活性化させて行くことが大事だ。また、変化の激しい時代では歴史を振り返ること(新たな知識=労働運動)が不可欠であり、連合はいかなる状況下にあっても人への想いを大切に、より良い社会を皆さんとともに創り上げていきたいと思っている」と述べた。

その後、一般活動報告ならびに2022年度中間会計決算・監査報告がなされ承認された。議案では、2022春季生活闘争方針(案)や第93回メーデー宮城県大会開催(案)、第26回参議院選挙対応方針(案)が提案され、満場一致で承認された。



議長団:高橋幸哉 地方委員 [J P 労組] (左)
山田俊徳 地方委員 [私鉄総連] (右)



新役員の照井執行委員
(女性委員会 委員長)



新役員の高瀬常任執行委員
(石巻地協 事務局長)

第73回地方委員会 主な議案

- 第1号議案 連合宮城2022春季生活闘争方針(案)について
- 第2号議案 第49回衆議院選挙取り組みのまとめ(案)について
- 第3号議案 第93回メーデー宮城県大会の開催(案)について
- 第4号議案 第26回参議院選挙の対応方針(案)について
- 第5号議案 役員交代について
- 第6号議案 役員表彰について
- 第7号議案 その他

フリーランスの課題解決に向けて //

組合員のみならず 知人に

フリーランス

ワーク
Wor-Q のサイトを紹介してください

こちら→  連合ワーク 

連合宮城2022春季生活闘争 未来をつくる。みんなでつくる。



春季生活闘争討論集会

連合宮城 2022 春季生活闘争



闘争方針(案)について提起

連合宮城は、以下のとおり新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、規模の縮小ならびに感染防止対策を徹底したうえで、連合宮城2022春季生活闘争「討論集会」を開催した。

- 開催日時 2022年1月25日(火)18時00分～19時00分
- 開催場所 ハーネル仙台 2階「松島」(最大収容人数255名)
- 開催内容 (1)主催者あいさつ
(2)連合宮城2022春季生活闘争方針(案)について
(3)構成組織における要求方針ならびに決意表明について
- 参加人数 50名(例年100名程度) ※収容率約20%



構成組織からの報告
西内氏(JP労組)と三浦氏(フード連合)

冒頭、主催者あいさつとして大黒会長は「これまで日本経済の発展・安定に貢献してきたのは働く者であり、これからもより充実した活躍できる環境を構築していかななくてはならない。今は原材料等の高騰や円安の流れにより物価が上昇しているが、本来あるべきは、しっかりと賃上げを行い個人消費を増やし、その結果物価が上がるというのが正常な流れである。これまでの賃上げの流れを継続し、しっかりと雇用を守る。そして未来に発信することで、組合のないところへ波及していく。そういった春季生活闘争にしていきたいと思います」と述べた。

つづいて、本来であれば連合本部より講師を招き、今次春季生活闘争を取り巻く情勢や課題について講義を予定していたが、新型コロナウイルスの変異株による感染者の急激な増大に伴い、全国的に「まん延防止等重点措置」の適用がされたことを踏まえ、講師派遣は中止とし阿部副事務局長より本部方針を含めた「連合宮城2022春季生活闘争方針(案)」について提起した。

最後に、各構成組織における要求方針と決意表明について、JP労組・フード連合の2構成組織より受けた。残念ながら「団結ガンバロー」での締めくくりは見送ったが、今次春季生活闘争の勝利を祈念して閉会した。



春季生活闘争勝利総決起集会

連合宮城 2022 春季生活闘争



▲決意表明をする上から仲野氏(情報労連)、若生氏(私鉄総連)、早川氏(JEC連合)

連合宮城は、今次闘争を取り巻く情勢や構成組織の方針の共有、勝利に向けた団結を目的に、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、例年屋外で開催している集会について、開催形態や規模の縮小ならびに感染防止対策を徹底したうえで、連合宮城2022春季生活闘争「勝利総決起集会」を以下のとおり開催した。

- 開催日時 2022年2月22日(火)16時00分～16時30分
- 開催場所 ハーネル仙台 2階「蔵王」(最大収容人数255名)
- 開催内容 (1)主催者あいさつ
(2)2022春季生活闘争に係る情勢報告
(3)各構成組織における決意表明(情報労連、私鉄総連、JEC連合)
(4)集会アピール(案)採択
- 参加人数 約60名 ※収容率約25%(例年は屋外のため、約300名程度)



冒頭、主催者あいさつとして大黒会長は、「近年は経営状況の悪化や非正規雇用労働者の増加により、平均賃金が7万円程度しか上がっていない。内部留保については過去最高の484兆円と言われており、しっかりと人、物に対し投資をしていかなければならない。このコロナ禍ではエッセンシャルワーカーへのダメージが特に大きい。希望ある未来に向けてしっかりとこの賃金の流れを変えたい」と述べた。

つづいて、星事務局長より今次春季生活闘争を取り巻く情勢について説明を受けた後、情報労連・私鉄総連・JEC連合の3つの構成組織より情勢報告・決意表明を受けた。

最後には、阿部副事務局長が集会アピール(案)について読み上げ、参加者全員の拍手で採択された。

新型コロナウイルス感染防止の観点から「団結ガンバロー」は見送ったが、今次春季生活闘争の勝利に向けて、参加者全員の拍手で閉会した。



宮城県経営者協会との「労使懇談会」

連合宮城 2022 春季生活闘争

連合宮城は、今次春季生活闘争のヤマ場の前段において、以下のとおり宮城県経営者協会と労使懇談会を開催し、『連合宮城 2022 春季生活闘争に関する要請書』を提出し、現下のコロナ禍の影響を踏まえた雇用安定と賃金の引上げ、ならびに「すべての労働者の立場にたった働き方」の見直しなどについて要請を行った。

- 開催日時 2022年3月1日(火) 14時00分～15時10分
- 開催場所 江陽グランドホテル 4階「銀河の間」
- 開催内容 (1)労使代表者あいさつ
(2)「2022 春季生活闘争に関する要請書」手交
(3)意見交換会
- 出席者 連合宮城四役(9名)、宮城県経営者協会(15名)



宮城県経営者協会の海輪会長は、経労委報告のポイントについて触れるとともに、「宮城県は中小・小規模事業者の占める割合が高く、サービス業など第3次産業が主軸となっている。コロナ禍の長期化に伴い、とりわけ飲食・観光・運輸などのサービス業が多大な影響を受けており、有期雇用労働者等が多く従事している傾向にある。したがって、経済好循環のためには、働き手・企業・政府が一体となった労働移動の推進やセーフティネットの整備のほか、均等・均衡待遇にも取り組まなければならない。雇用形態を問わず働き手の処遇改善を行うには、生産性向上に基づいた持続的な付加価値の増大が求められるが、増加するコストを取引先に転嫁できない状況に陥っている地方中小企業も少なくない。付加価値を適正に分配し、地域経済の好循環をしっかりと回していくという基本認識は労使で一致している。いかに付加価値を増大させるか、適正分配はどうあるべきかといった観点も含め、幅広にかつ率直に議論をしたい。」と挨拶。

連合宮城の大黒会長は「コロナ禍により「K字型回復」が特徴となっているが、米国では各種行動制限が緩和された結果、消費ブームが生じており、日本でも経済活動が正常化した場合に同様の消費ブームが起きるかに関心が集まっている。宮城県は人口の流出・減少には歯止めがかからず、地域経済や自治体の活力・存続に影響を及ぼしている。この間様々な政策が実施されてきたが、東京都の人口は決して転出超過となることはなかった。しかし、コロナ禍ではあっけなく流出に転じている。この機を逃さず地方の持つ潜在力を新たな魅力としてアピールしていくことが重要である。経労委報告では『月例賃金だけでなく、諸手当や一時金など様々な選択肢の中から、自社に適した賃金引上げ』としているが、最も重要なことは生活設計に直結する月例賃金の引き上げである。経済を自律的回復軌道に乗せるため、すべての働く者に広く波及する月例賃金の改善が最優先である。今次闘争は、賃上げを一年限りではなく、長く続けていく「企業の稼ぐ力」を増す必要がある。そのためには「人への投資」が大きなカギを握り、人件費を「コスト」ではなく、社会全体で働く人への「投資」として個人消費の拡大につなげ、長期的に日本の賃金水準を引き上げていくことが大事である」と述べた。

労使懇談会では今次春季生活闘争を取り巻く状況について意見交換を行った。

連合宮城 2022 春季生活闘争に関する要請項目

- (1) 賃金引き上げ、「底上げ」「底支え」「格差是正」の取り組み
- (2) コロナ禍における雇用・賃金への影響に対する取り組み
- (3) 働き方も含めた「サプライチェーン全体で生み出した付加価値の適正分配」
- (4) 「すべての労働者の立場にたった働き方」の見直しについて



海輪会長に要請書を手交する大黒会長(左)



連合宮城



宮城県経営者協会

連合宮城青年委員会「2022 青年春闘フォーラム」を開催

連合宮城青年委員会は、2022春季生活闘争の取り組みとして「2022 青年春闘フォーラム」を開催した。例年であれば、幹事による街頭行動を行った後にフォーラムを開催してきたが、今年も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、昨年に引き続き街宣行動は実施せず、初めてZoomを活用したリモート参加を可能とした併用型（ハイブリット型）にチャレンジし、メイン会場への集合は9名、リモート参加が17名（15接続）で実施した。

学習会では、連合宮城阿部副事務局長から2022春闘の情勢や取り組みなどについて講演をいただいた。短時間での開催となったものの、リモートでの参加者も多く、今後の青年委員会活動の可能性に幅を広げることができた。



挨拶をする畠中委員長

1. 開催日時 2022年3月4日（金） 18:30～19:10
2. 場 所 ハーネル仙台4階 青葉（メイン会場） * Zoom 接続先によるリモート併用開催
3. 内 容
 - ①開会（司会） 佐藤事務局長
 - ②挨拶 畠中委員長
 - ③学習会「2022 春季生活闘争の取り組みについて」 連合宮城 阿部副事務局長
 - ④閉会 松長副委員長
4. 参加者

会 場	（幹事：5人、組合員：2人、事務局：3人）
リモート	（幹事：3人、組合員：14人、地協：1人）



会場の様子



WEB参加者

連合宮城女性委員会「3.8 国際女性デー宮城県行動」を実施

今年の「3.8 国際女性デー宮城県行動」は、新型コロナウイルスの変異株拡大により、昨年に引き続き宮城県集会は開催しないこととし、実行委員会構成団体の政策を訴える街宣行動のみとした。

連合宮城女性委員会からは、2022 春季生活闘争と連動し女性の地位向上や男女平等、労働組合結成の重要性を照井委員長が訴えた。

○街宣行動

- 日 時：2022年3月8日（火） 11:45～12:30
 場 所：一番町平和ビル前
 内 容：2022 春季生活闘争、ディーセントワーク、ワーク・ライフ・バランスの実現、ジェンダー平等、ハラスメント防止を訴える街頭演説
 参加者：連合宮城より7名（全体として20名）
 <女性委員会> 照井美紀委員長・宮川則子副委員長・高畑利恵事務局長
 <事務局> 星・菊池・佐竹・佐藤奈津子

○リレートーク

- | | |
|---------------|-------------------|
| 進 行：連合宮城女性委員会 | 高 畑 利 恵 事務局長 |
| ①連合宮城女性委員会 | 照 井 美 紀 委員長 |
| ②立憲民主党第二県連 | 猪 股 由 美 仙台市議会議員 |
| ③立憲民主党宮城県連 | 大 野 その子 宮城第3区総支部長 |
| ④I女性会議宮城県本部 | 高 橋 広 子 議長 |



◀街宣車より訴える照井委員長④、街頭宣伝の様子①